

水泳授業に関する実態調査 の主な結果

<概要>

●調査対象

市立全小中学校（小学校115校、中学校52校）

※新小倉小学校は一部回答

●調査内容

令和6年度の水泳授業の実施内容等

●調査期間

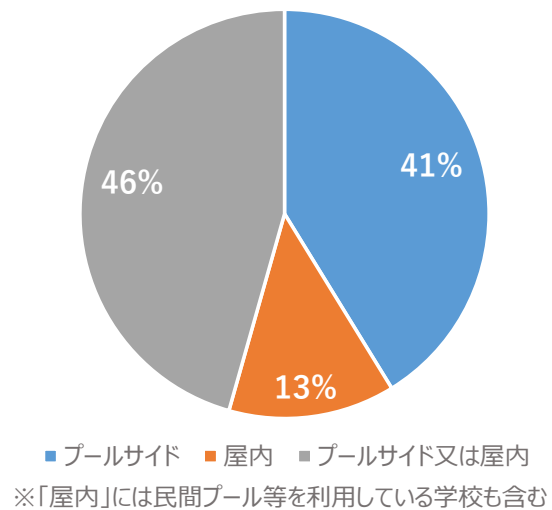
令和7年6月中

「令和 6 年度の水泳実技指導の計画時数に対する実施時数の割合」

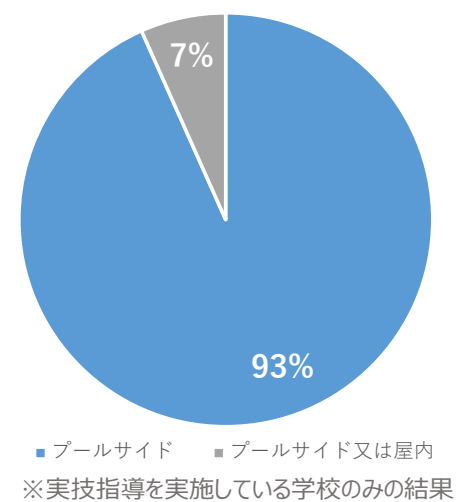
小学校 **89.1%** 中学校 **92.5%**

「令和 6 年度の見学者の見学場所について」

小学校

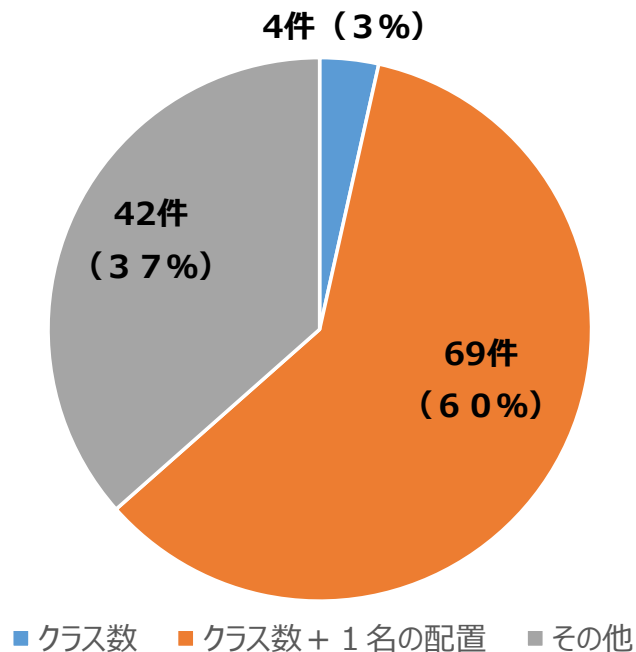


中学校

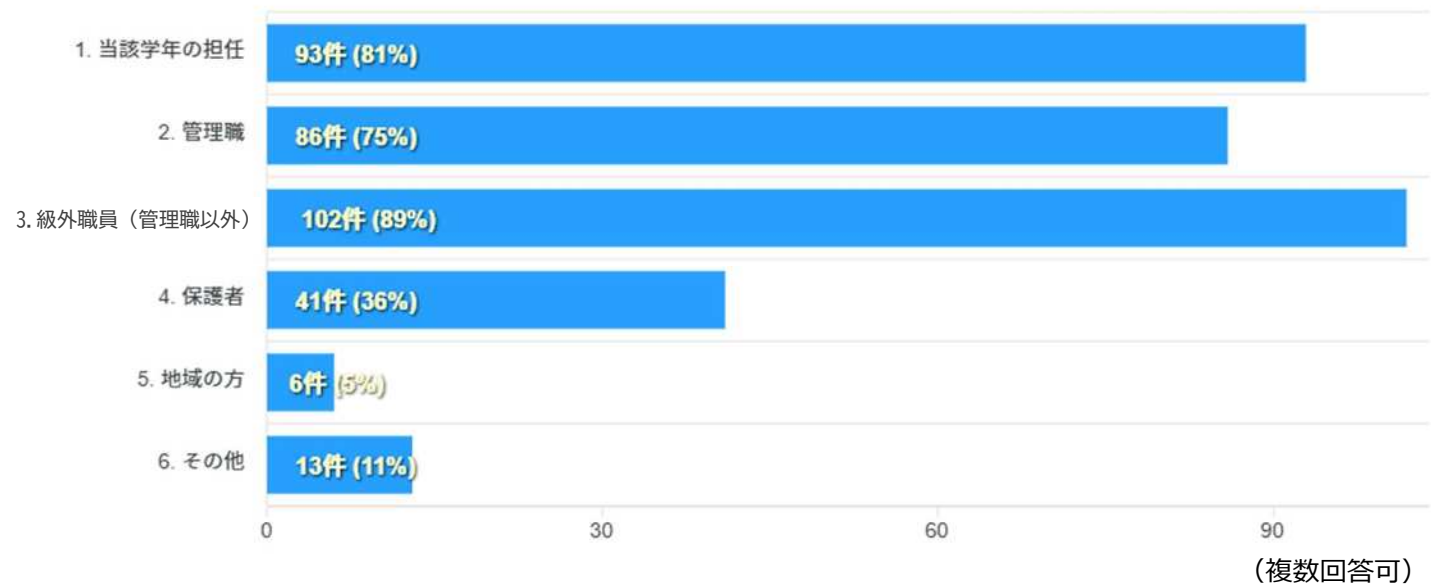


水泳授業における指導及び監視体制について

「【小学校】計画している配置人数、人材」



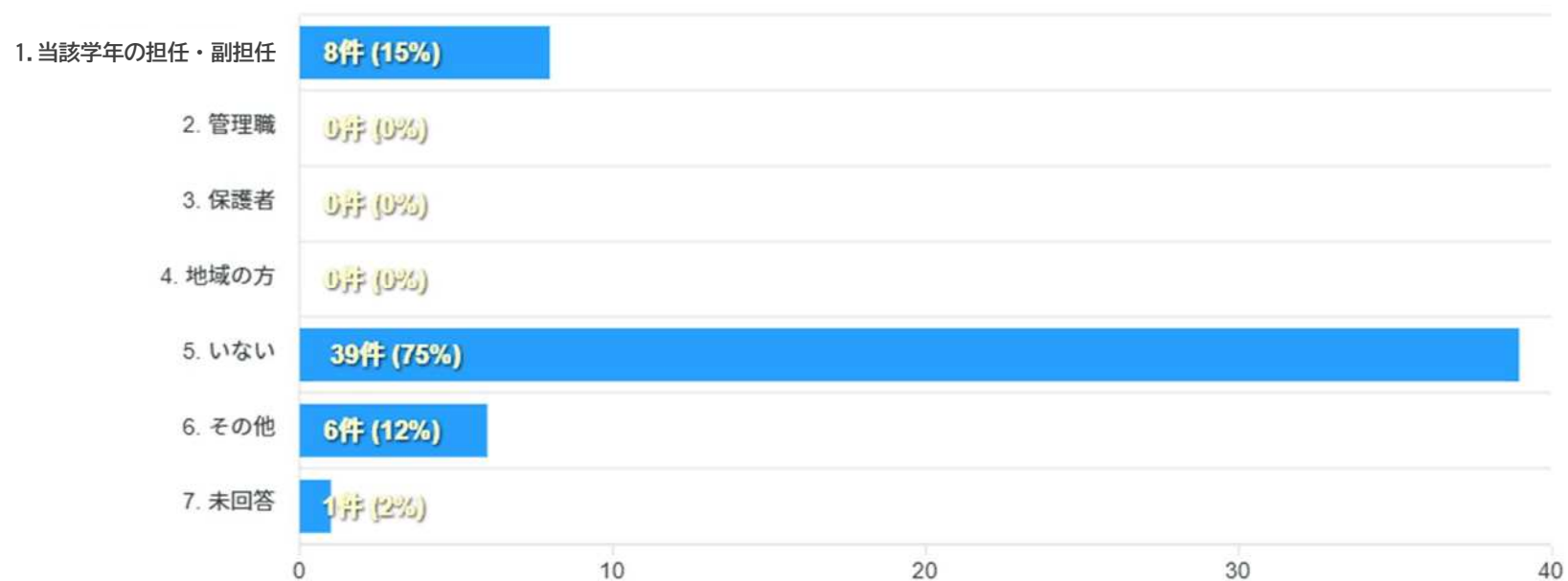
その他：大半がクラス数 + 1名より多く配置している。
例 クラス数 + 2名、ボランティアや保護者を配置等



その他：学校内の人材（体育専科、空き時間の教職員、校務員）
外部人材（学生ボランティア、学校サポーター、インターンシップの学生、民間プールの職員）

水泳授業における指導及び監視体制について

「【中学校】授業で保健体育科の教員以外に配置している教職員等」（複数回答可）



その他：配置してはいないが、学年の先生に様子を見るように声かけしている など

水泳授業における指導及び監視体制について

「【小学校】指導及び監視体制を整備するために、課題になっていること（自由記述）」 主な意見

○人員不足（49件）

- ・当該学年以外の教職員（管理職や級外教員等）の監視では、学校運営に支障が生じる。
- ・学年行事等が重なってしまうと、級外の監視がいなくなってしまう。 等

○調整の難しさ（22件）

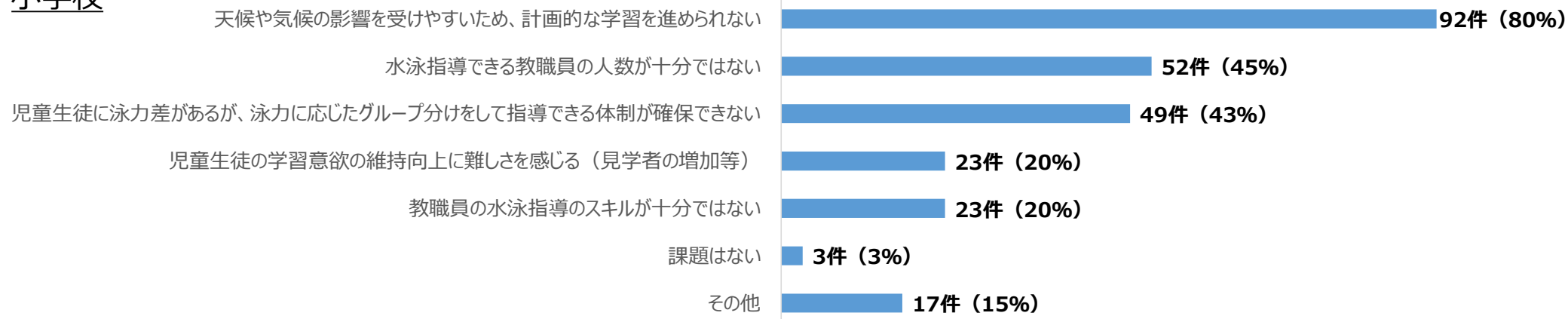
- ・天候、暑さ指数による急な変更の連絡調整が複雑である
- ・保護者ボランティアの人数確保と日程調整が困難。学習前の教員との打ち合わせの時間の確保が難しい。 等

○技能差等による個別対応や見学者対応の難しさ（4件）

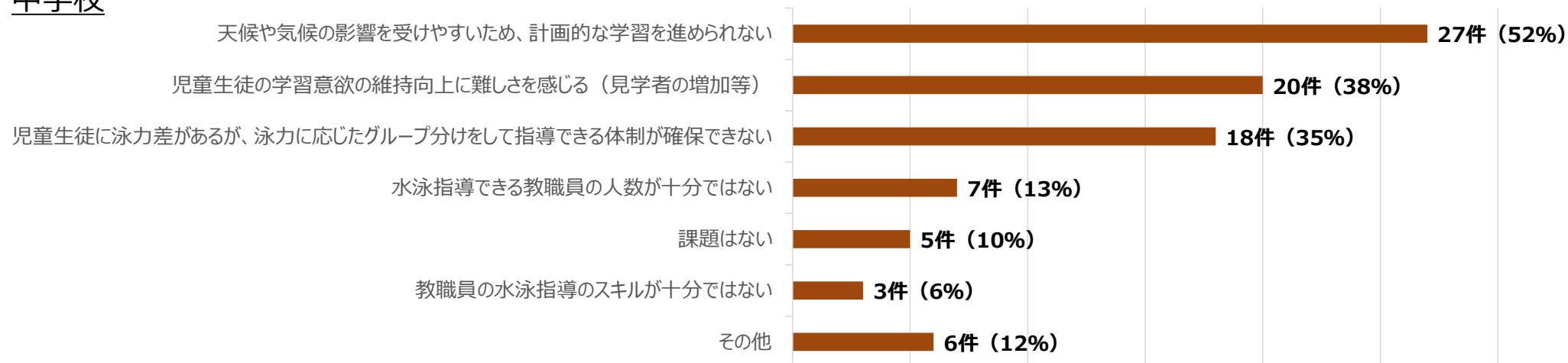
- ・指導できる教員が少なく、子どもたちをきめ細かく指導することが難しくなっていると感じている。
- ・見学者に対する十分な支援が行うことができない。
- ・個別に支援の必要な児童がいる場合の人数配置。 等

水泳指導を行う上で学校としての課題（複数回答可）

小学校

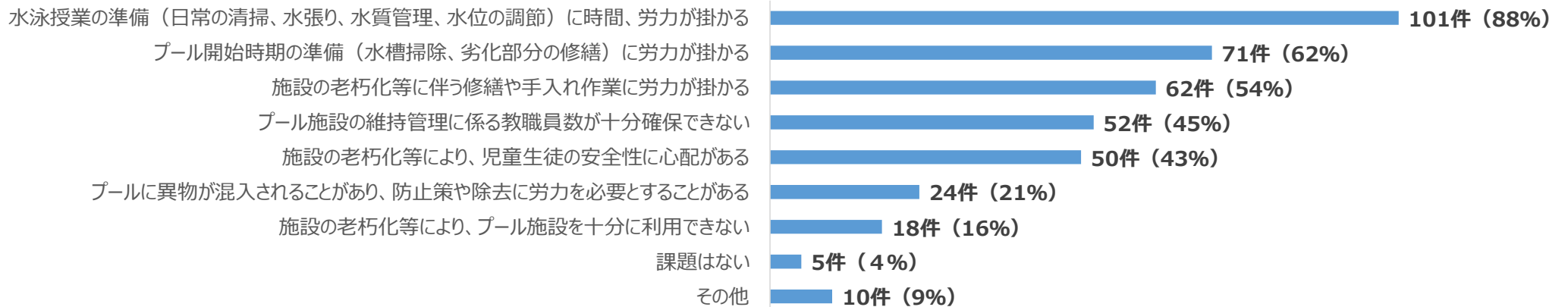


中学校

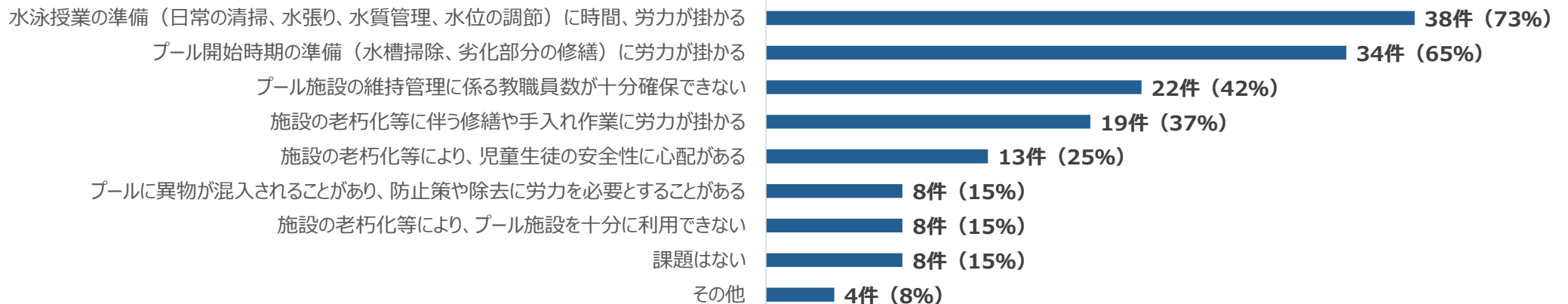


維持管理を行う上で学校としての課題（複数回答可）

小学校



中学校



「学校プールの維持管理業務を主に行っている教職員等」

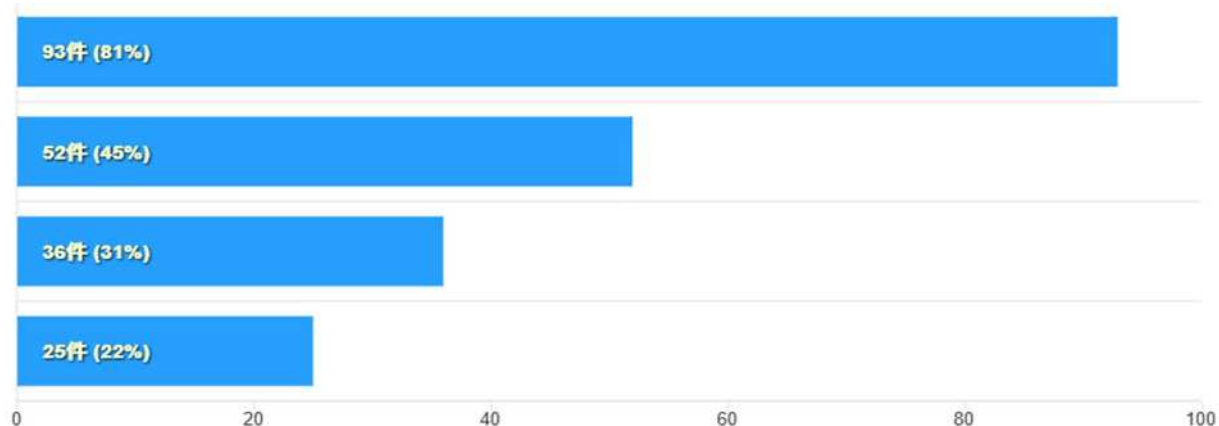
小学校

学校全体で分担している（次回授業を行う学年など）

体育主任

学校用務員

その他



中学校

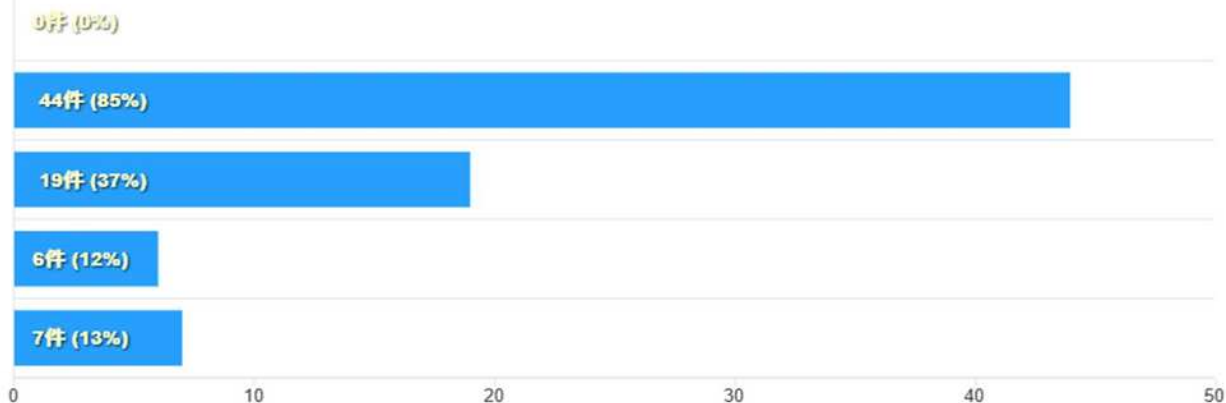
学校全体で分担している（次回授業を行う学年など）

保健体育科の教員

水泳部の顧問

学校用務員

その他



「令和6年度の水泳授業実施期間における学校プール維持管理業務時間（1週間の概算）」※例：1日60分×5日間＝300分

小学校

335.8分 → 1日に約1時間10分

中学校

258.3分 → 1日に約50分

今後の水泳指導やプールの維持管理の在り方について（複数回答可）

小学校

専門指導者を派遣してほしい

64件 (56%)

管理業務を委託し業者に任せたい

82件 (71%)

外部施設を活用して水泳授業を実施したい

61件 (53%)

外部施設を活用し、専門指導者の協力を得て水泳授業を実施したい

68件 (59%)

今のままでよい

6件 (5%)

その他

7件 (6%)

0 20 40 60 80 100

中学校

専門指導者を派遣してほしい

11件 (21%)

管理業務を委託し業者に任せたい

34件 (65%)

外部施設を活用して水泳授業を実施したい

12件 (23%)

外部施設を活用し、専門指導者の協力を得て水泳授業を実施したい

11件 (21%)

今のままでよい

7件 (13%)

その他

4件 (8%)

0 9 18 27 36